育てたい「環境を大切にする心」市民環境フォーラム

8月11日、ビバシティ彦根（竹ケ鼻町）の研修室で、「市民環境フォーラム」が行われ、大学生から定年退職して地域で活動している人まで、それぞれの立場で環境のために取り組んでいることを話し合いました。

参加者からは、「環境活動を広げていくには、子どものときから、地域ぐるみで環境を大切にする心を育てていく必要があるのでは」などの意見もありました。その他、講演や市民出資型太陽光発電についても説明がありました。

大雨による被災地へ彦根市の職員が復旧支援

8月15日の集中豪雨により被害を受けた大津市石山外畑町で、彦根市職員が復旧支援を行いました。

市職員は17日の午前中に現地に向かい、民家や側溝に流れ込んだ土砂をスコップや一輪車などを使い撤去しました。

20日までの4日間、延べ約100人の市職員が土砂の撤去を始め、民家や周辺道路の清掃を行いました。

子どもたちの熱演に大きな拍手 狂言教室の発表会

8月18日、彦根城博物館（金亀町）の能舞台で、「キッズサマースクール」の狂言教室の発表会が行われました。「キッズサマースクール」は、彦根城博物館が子どもたちを対象に伝統文化に親しんでもらおうと毎年開催しています。

狂言教室に参加した児童は、7月から練習を始め、和泉流の狂言師らに狂言の動きの基本から学びました。児童は、練習してきた成果を発揮して、扇子を使って大きな声と身振りで熱演していました。児童の堂々とした姿に会場からは大きな拍手が湧き起こっていました。

「待ってました初秋の味」彦根梨の販売に長い列

8月24日、JA東びわこ果樹工房（石寺町）で、彦根梨の出荷・販売が始まり、直売所では朝早くから初秋の味覚を求めて列ができました。

今年の梨は、やや小ぶりながらも、日照時間に恵まれ糖度が13～15度に達するものがあり、甘いとのことです。

JA東びわこの職員らは、農家が収穫した梨を一つひとつ丁寧に選果し、袋詰めの作業を行っていました。

今年は昨年と同程度の、約120トンの出荷が見込まれています。

災害時の備えを確認 防災訓練に1、100人

8月25日、市民体育センター（松原町）周辺ほかで、地元の自治会や消防関係者など約1,100人が参加した彦根市防災訓練が行われました。

訓練では、消防団や道路河川課による水防訓練や、災害ボランティアネットワークらによる災害ボランティアセンターの設置訓練、防災会・自治会による初期消火訓練やバケツリレーなどが行われました。

参加者は、真剣な表情で取り組み、防災意識を高めていました。

「図書館に足を運ぼう」地元ゆかりの演奏家がロビーコンサート

8月25日、市立図書館（尾末町）で、ロビーコンサートが行われました。「彦根の図書館を考える会」が、多くの人に図書館の良さを知ってもらい、図書館に来てもらおうと企画しました。

彦根市に縁のある演奏家の「エコーメモリアル・チェンバー・オーケストラ」が、モーツァルトやヘンデルの曲などを演奏しました。

その他にも絵本「はらぺこあおむし」の朗読と曲の演奏との共演も披露され、観客は演奏終了後に大きな拍手をしていました。

「新鮮でおいしかった」スイートコーン収穫体験

8月29日、松原町の畑で、西中学校1年生104人による「農」と「食」の大切さを学ぶ農業体験が行われました。湖東定住自立圏地産地消事業の一環で、松原町の農家の皆さんの指導を受けて、7月に植えたトウモロコシの収穫を行いました。

今回は大きさが20～30cmあるスイートコーンが約1,500本穫れました。翌日には塩ゆでして昼食時に全校生徒で食べ、城西小学校や特別養護老人ホームささなみ苑にも配られました。今後もジャガイモなどを収穫する予定です。

初めての「展示替」見学会 彦根城博物館

8月29日、彦根城博物館の展示室（金亀町）で、「展示替」の見学会が初めて行われました。

これは、細心の注意を払いながら文化財を取り扱う様子などを見てもらうことで、文化財を伝えていくことの大切さを知り、彦根城博物館をもっと身近に感じてもらおうと開催したものです。

「作品の安全を第一に考える一方で、作品を単調に並べずに、前後にしたり、高さに変化をつけたりして、じっくり見ていただくように工夫しています」などの説明を聞いた参加者は、熱心にメモをとったり、質問をしたりしていました。